

# 12/1リハーサル

ICSAF 2019 尚美学園大学パストラルホール

12/1(日) 第二日目	パストラルホール コンサート2 (リハ)	
9:00-9:25	25	R1 (P1)坂田晶(昭和音楽大学大学院) 1台のハイランド・バグパイプと電子音響によるライブ・パフォーマンス作品。バグパイプによって演奏される旋律は、当楽器の古典的な音学ジャンルであるPiobaireachdの楽曲集分析から、あらかじめ自動で生成されている。パフォーマンスでは、バグパイプの演奏と同時に、リアルタイムで生成されるバグパイプ・シンセサイザーとのアンサンブルといくつかの音響処理によって構成される。
9:25-9:35	10	R2 (P2)今村海帆 (同志社女子大学) アコースモニウム演奏 映像使用
9:35-10:05	30	R3(P3) 村井佑美果 (名古屋学芸大学) トランペットで演奏された音をリアルタイムにサンプリングし、生演奏と組み合わせて即興的に作品を構築、5つのスピーカーから出力、出力先や音を生成するシステムの切り替えは、コンピュータプログラムによって行われる。
10:05-10:15	10	R4(P4) 高橋健人 (名古屋市立大学) -1Future bassとhip hopの融合作品。現代のポピュラーな連絡手段LINEや今を生きるユースカルチャーに電子音、EDMによく使われるvocal chopを組み合わせた新しい作品。アコースモニウム再生
10:15-10:25	10	R5(P5) 日本音楽即興学会talk session-2
10:25-10:35	10	R6(P10) 日本音楽即興学会talk session-3
10:35-10:45	10	休憩、調整(20min) R7のセッティング
10:45-11:05	20	R7(P11) 中村 文香・伊藤 利恵 (名古屋学芸大学) ピアノとフルートとコンピュータによるサウンドパフォーマンス作品。タッチデザイナーを使用し、 <del>ピアノとフルートの音をリアルタイムで可視化する</del> 。また、フルートにはMaxプログラミングを使用し、ディレイの音響効果を用いる
11:05-11:15	10	R8(P12)水島愛弥 (名古屋市立大学) 歌声合成ソフト「SynthesizerV」を用いてFuture bass × Hard coreの世界観を表現。アコースモニウム演奏
11:15-11:40	25	R9 (P1)西田騎夕 (九州大学大学院) バイオメモリスタを用いたモジュラーシンセによるライブパフォーマンス。アロエベラを用いたバイオメモリスタをモジュールに用いることにより、新たな表現の可能性を開く。system700使用。
11:40-11:50	10	R10 (P14)久米乃瑠、坂口勝紀 (帝塚山学院大学) アコースモニウム演奏
11:50-12:10	20	PA休憩 R11のセッティング
12:10-12:30	20	R11(P6) 寺井まひろ (京都精華大学)テニスラケットのガット部分をギターに張り替え、ピックアップ、ピエゾ端子などの振動を音に変換させる装置を付ける。出力は、こちらでギターアンプを用意する。(PA無し) 演者は上記のシステムを利用しパフォーマンスしていく。

12:30-12:50	20	R12 (P7)中倉理志（京都精華大学）音楽をインストゥルメント毎にゲーム内で再生し、インストゥルメントの音をミュート、またミュート解除をする。プレイ画面をプロジェクターで映し、視覚的にも楽しんでもらいたい。 <b>映像使用</b>
12:50-13:15	25	R13(P9) 村尾尚哉（京都精華大学）掃除機に(加速度)センサーを取り付け、掃除する動きに反応して音(清潔さについてを問かける詩の朗読)が流れる。動き方によって音(テンポ)が変化し、詩の内容と動きが合わさって掃除機に感情があるかのようにパフォーマンスを行う。
13:15-13:40	25	R14(P15)横川十帆（九州大学大学院）生のイカを使ったライブパフォーマンス作品。イカに電極を取り付け、PCから流す音楽によってイカを刺激し、イカの体色を変化させる。イカの体色変化はデジタル顕微鏡を用いて撮影し、スクリーンに投影する。 <b>映像使用</b>
13:40-14:00	20	PA調整、開場準備